にしん

西尾信用金庫
5者連携による地域支援体制の強化

２０２０年３月４日
知財金融シンポジウム　事例発表資料
西尾信用金庫

１．知財活用の取組紹介

- 西尾信用金庫　企業概要
- 当庫と特許庁知財金融事業との関わり

Copyright (C) THE NISHIO SHINKIN BANK All Rights Reserved.

西尾信用金庫　企業概要

西尾信用金庫

所在地	愛知県西尾市寄住町洲田51番地
設立	大正2年10月1日
会員数	65,242人
出資金	786百万円
預金	１兆2,197億円
貸出金	5,753億円
店舗数	49か店
役職員数	749人
関連会社	にししんビジネスサービス株式会社
	にししんリース株式会社
	にししん信用保証株式会社

- 地域経済・産業を支える地域金融機関として幅広い顧客ニーズに対応
  - 地域に生まれ、地域で育ち、地域の皆さまとあゆむ
  - 金融機能の提供にとどまらず、文化・環境・教育といった面も視野にいれ、広く地域社会の活性化及び社会貢献活動等に取り組む

当庫と特許庁知財金融事業との関わり

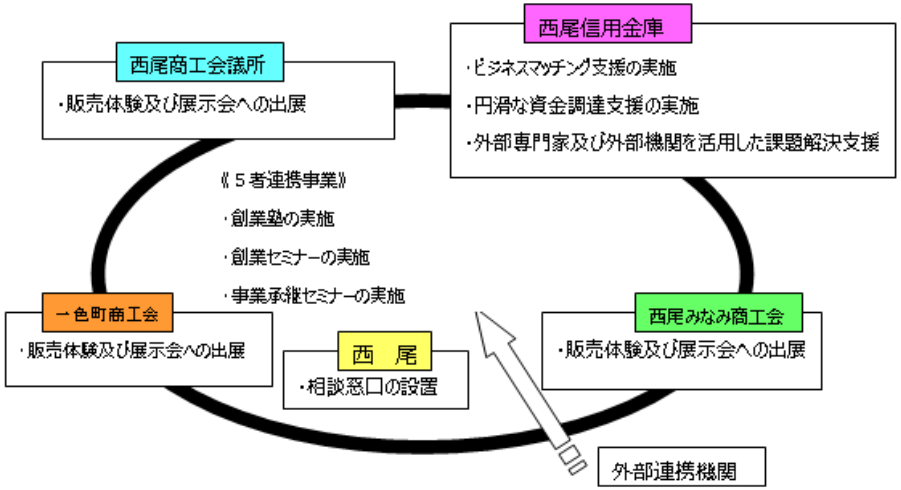
日時	内容	備考
平成28年度	知財ビジネス評価書作成支援応募・採択	3社応募・1社採択
平成29年度	知財ビジネス評価書作成支援応募・採択	1社応募・1社採択
平成30年度	伴走型支援（組織施策支援枠）応募・採択	
平成31年度	オーダーメードコース応募・採択	
令和2年1月27日	第1回知財勉強会実施	弁理士による知的資産に関する講義
令和2年2月21日	第2回知財勉強会実施	将来価値設計シートの活用方法について講義
令和2年2月28日	第3回知財勉強会実施	将来価値設計シートを活用したワークショップ

２．地域における支援体制と取組紹介

- ５者連携の概要
- 特許庁知財金融促進事業（オーダメイド支援）
  ①勉強会による知財活用の理解促進
  ②ワークショップによる地域ブランド活動に対する支援方策検討

Copyright (C) THE NISHIO SHINKIN BANK All Rights Reserved.

５者連携の概要



平成２５年７月１７日「西尾市における産業振興連携協力に関する包括協定」を上記５者で締結。
上記５者が連携し、創業希望者等に対して、ワンストップ相談窓口、ビジネスマッチング支援の実施、円滑な資金調達支援の実施、外部専門家及び外部機関の活用、創業塾、販売体験及び展示会への出展、創業セミナーを実施。
創業後も、上記事業の継続実施や外部専門家を活用した課題解決支援等の実施により、フォローアップを実施。

- ５者連携とは…

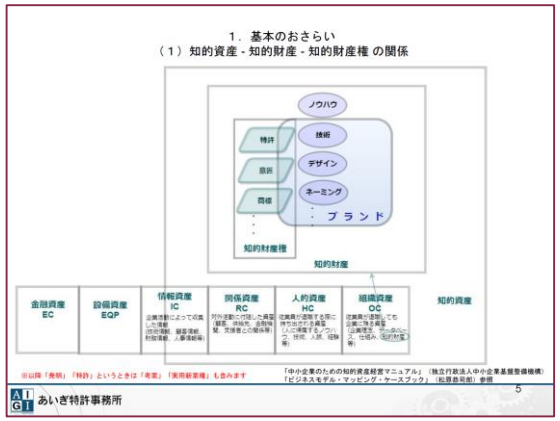
➢ 西尾市における産業振興連携協力に関する包括協定締結
➢ 地域の持続可能性を高めることを目的に、地方公共団体、商工会議所・商工会など主要な機関と協調し、地域活性化事業を実施

〇創業支援セミナー
〇創業キホン塾
〇事業承継セミナーほか

特許庁知財金融促進事業（オーダメイド支援）

①勉強会による知財活用の理解促進

- あいぎ特許事務所　弁理士　廣田美穂氏を講師に迎え勉強会を開催
- 地域の価値創造の重要性について理解し活動の具体化の必要性について共通認識を得る機会となる



２．支援機関の役割
（１）価値創造のヒント役

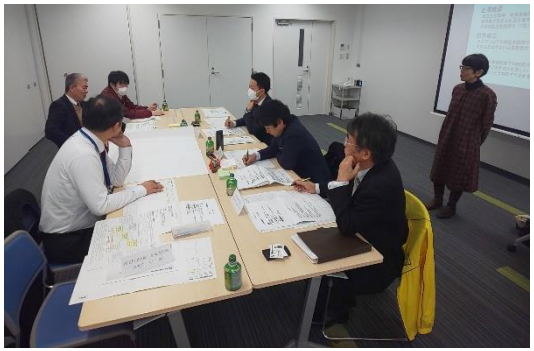
価値創造のヒント役

(1)「**将来価値設計シート**」（仮称）等のフレームワークを活用して「客観化」のサポート

(2)「客観化」したものを５者で情報共有
→共通認識が可能に

(3) 必要に応じて専門家との連携

特許庁知財金融促進事業（オーダメイド支援）



2．ワークショップ
（1）将来価値設計ノートの説明

「将来価値設計ノート」で客観化

意義
①思考補助・デザインツール
経営課題の気づき・整理、ビジネスモデルの見直しを図ることができる
②対話促進ツール
外部との連携、支援者による助言等を受け入れられる機会を創出
③事業承継補助ツール
①を契機とし、②で対話促進

2．ワークショップ
（2）将来価値設計ノートの試活用

仮想事例１：BtoBの新規事業
鋳物企業の新規事業

企業概要
設立から50年　従業員数50名　資本金1,000万円
高精度が要求される半導体製造装置向け等の鋳物を手掛ける
半導体製造装置向け（1社）の売り上げが全体の半分程度

競争優位
ミクロン以下の精度を鋳物で出せる技術力
不良品を出さない品質管理力

課題
顧客企業の事業転換で1980年代に半導体分野へ進出して成功したが、
半導体業界は浮き沈みが激しい
沈んだときにどう対応すべきかを考えておく必要がある

②ワークショップによる地域ブランド活動に対する支援方策検討

- あいぎ特許事務所　弁理士　廣田美穂氏を講師に迎えワークショップを開催
- 地域発の価値創造について具体的なケースに対する支援のあり方や具体的な支援内容を検討
- 「**将来価値設計ノート（仮称）＊**」を活用したワークショップを事務局の助言を得つつ実施

＊「将来価値設計ノート（仮称）」は中部経済産業局が本年度事業で設計したツールであり、今後局より公表される予定。
廣田弁理士は検討委員としてツール設計に参加されていた。

特許庁知財金融促進事業（オーダメイド支援）

②ワークショップによる地域ブランド活動に対する支援方策検討

将来価値設計ノート　作業シート１

③組織内で共有する・対外的に発信するメッセージ：西尾の「鐵100年物語」

日付	2020.2.21
作成	5者連携ワークショップ
専門家	弁理士　廣田美穂 事務局　萩原達雄
支援機関	

①創造・提案してきた価値とその課題

【価値】
- 鋳造技術の集積・蓄積
- 加工技術の集積・蓄積
- 自動車・工作機械の製造を支えるサポート産業の集積
- 大企業の要求に応える設備・管理技術・ノウハウの蓄積
- 新規参入が少なく、横の連携が円滑
- 一貫生産への転換による経営効率の改善

【課題】
- 特定業界との取引に偏重
- 自動車の電動化による市場縮小
- 特定取引先に依存することによる市場開拓力の弱さ
- 製品ラインを集約させてきたことによる提案力の弱さ（従前は日用品等を製造してきたが、部材生産に特化）
- 鋳物製品のニーズ掘り起こし活動が不十分

②創造・提案したい将来価値・ｺﾝｾﾌﾟﾄ

【想定顧客】
BtoB
航空機、医療機器等の新分野
鋳物ニーズを有する未開拓分野
BtoC
高付加価値商品・ｺﾄの提案による一般消費者顧客の獲得

【将来価値】
幅広い業種・分野における鋳物ニーズを蓄積している
蓄積したニーズに応える製品開発が地域各所で実施されている
各企業の技術的な強みを生かした連携がなされている
西尾らしさを共通化する価値が言語化され共用できている

鋳物技術の活用可能性を広げる研究が行われている（面倒だと感じる顧客ニーズに応える体制がある）
原点回帰（顧客ニーズに寄り添った商品提案が、消費者に対して行われている。高付加価値日用品の提案）

④取り組むべき事項の設計

鋳造事業のリブランディング
- 小さなニーズに迅速・円滑に応える地域体制
  （にしお鐵シンジケート（仮称）による活動にて、当地で実施できることを情報発信、コーディネート機能によるニーズ掘り起こしを実施）
- 一貫生産とオーダメイド・協業対応の地域内バランスによる産地間競争への対応
  （中小事業者による分業体制による高質な製造能力による小ロット製品の提案を実施）
- あらたなニーズに地域で応える体制・考え方の浸透
  （組合を中心とした5者連携によるサポート体制、外部専門家を活用した活動）
- 西尾の鋳物産業の価値を伝える商品提案
  （ふるさと納税返礼品への登録、納税者が求める物品を製造し返礼品として納める商品の提案（鋳物の表札など））
- 鐵物語体験機会の提供
  （鋳物の歴史や技術を学ぶ機会を提供、親子参加型）

- 実施時期や実施主体は今後細部を検討していく
- 事業性についても今後検討しつつ、実現性を鑑みた実際判断をとっていく

⑤配慮する知的財産（権）・知的資産

- 技術＝特許による保護、ノウハウ管理による他者との差異化
- 形状＝意匠による保護
- 商品名＝商標による保護
- 品質管理＝ノウハウ・技能の蓄積とたゆまぬ継承

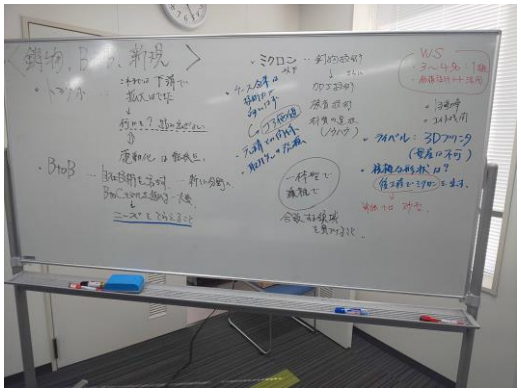
- 知的財産権の保護・活用の意識が高まり、日常的に議論されている
- 鋳造技術に関する継承が円滑に実施されている

- 商標＝プロジェクトネーミング、組織名の保護
- 蓄積技術が地域内他社に提供・利用され、双方の収益につながっている（ライセンス契約による技術活用促進）
- 地域を挙げたノウハウの継承が実施されている

- 鋳物産業の新規事業展開を支援する方策等を検討
- 将来どのような価値を創出できるのか、そのためのアクション案を協議
- 「西尾の『鐵１００年物語』（仮）」としてとりまとめ
- ５者連携の行動計画に反映させ、PDCAサイクルを推進させていくことを共通認識とする（予定）

特許庁知財金融促進事業（オーダメイド支援）

- 鋳物産業における新規事業創出支援メニューの検討（一例）



課題	将来像	支援のあり方
• 鋳造技術の集積・蓄積 • 自動車電動化への対策	幅広い業種・分野のニーズに応える製品開発が地域各所で実施されている	小さなニーズに迅速・円滑に応える地域体制 →にしお鐵シンジケート（仮称）による活動
• 特定取引先に依存することによる市場開拓力の弱さ	鋳物技術の活用可能性を広げる研究が行われている	一貫生産とオーダメイド・協業対応の地域内バランスによる産地間競争への対応

３．今後の取組について
（支援結果の活用についての期待）

- ワークショップの成果を活かした地域ブランド活動に対する支援方策展開（今後の構想や期待）
- 地域における知財活用促進に向けた課題
（国等の支援・助成制度を活用した活動継続）
- 地域に欠かせない存在として

Copyright (C) THE NISHIO SHINKIN BANK All Rights Reserved.

ワークショップの成果を活かした地域ブランド活動に対する支援方策展開

STEP 1 （本年度）
知的資産の目線を共通にする勉強会の開催

STEP 2 （本年度・来年度）
地域の価値を活用した
支援のあり方検討
「新規事業」

STEP 3 （来年度）
地域の価値を活用した
支援のあり方検討
「既存事業」

将来の価値創出をデザインする
支援のあり方を試考

知的資産を意識した地域内連携による
支援スタイルの確立の第一歩

- 今後の構想や期待
  - 勉強会、ワークショップを通じ地域の支援資源を再認識
  - 中小零細企業における支援ニーズの掘り起こしの重要性を再認識
  - 支援者から事業者に対する提案機会を確保しプロジェクト創出による地域をあげた活動へ発展させる
  - 知的資産の対応を支援できる体制を強化させていく

地域における知財活用促進に向けた課題

- 国等の支援制度・助成制度を活用した活動継続
  - 知的資産を切り口とした支援は道半ば
  - ５者連携による支援も成長過程にある
  - 特許庁、中小企業庁、経済産業省（中部経済産業局）などの支援を活用した支援事業の展開を進めたい
  - 「将来価値設計ノート（仮称）」を活用した支援を地域内で推進していきたい

地域に生まれ、地域で育ち
地域の皆さまとあゆむために…

（本年度の振り返り）

- オーダーメイド支援を地域内支援体制の強化に活用
- ワークショップを通じた参加支援機関の目線あわせ
- 具体的な取組内容の検討を通じた相互理解

（来年度以降）

- 検討した取組アイデアの具体化に向け継続協議
- 優先順を明確にし、準備に着手していく
- 地域経済を支える中小企業にとって欠かせない存在として多様な活動を展開
- 知的資産に限らず、外部の知恵を上手に活用していく

ご清聴ありがとうございました

西尾信用金庫